

第1回理事研修会 会長挨拶

皆様のおかげで、昨日の総会が順調に運営されるとともに、提出議案の全てをご承認いただいた。厚くお礼申し上げます。

平成26年度道小の活動計画、会務、決算・監査報告、予算等の議案が承認されるとともに総会宣言が採択された。今後は、業務執行機関としての理事研修会に委ねられた。よろしく願います。

本日の理事研修会では、各専門部の組織づくりと年間活動計画、平成27年度の文教施策・予算策定に関する要望書、「『生きぬく力』を育む本道教育の充実に向けた提言」、道小第57回教育研究日高大会の分科会運営体制などについての協議をお願いすることになる。

新年度、新組織としてのスタートに当たり、その一つ一つが大変重要な内容であり、昨日の総会を受けて本日から早速、道小の具体的な取組が開始されることになる。

この1年間、校長の職能向上と北海道教育の振興・発展のため、各地区において理事の皆様が遺憾なく力を発揮していただけるよう、充実した研修・情報交流の場となることに努めたいと思う。理事の皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

第1回の理事研修会に当たり、今年度の北海道小校長会として大切にしたい姿勢について5点お話しする。

1点目は、「鋭い時代感覚と強い使命感」についてである。

私たち校長の大きな役割として、教育課程の編成・実施・評価・改善がある。それは、それぞれの学校の教育目標と子どもの実態から子どもに培う力を紡ぎ、教育活動を編み上げる作業である。

これからの時代、「協働やチームワーク、ICTを使って、いかに社会と関わり合う力を育むか」が重要だと指摘され、新しい学習指導要領にも盛り込まれると言われている。

また、学習指導要領改訂にあたっては、「何を知っているか」ととどまっている現状を脱却して、「知っていることを活用して何ができるか」にまで発展させる必要があると言われている。

21世紀を生きる子どもたちにとって不可欠な資質能力である以上、次期の学習指導要領の告示を待っているのだけでは遅すぎるのではないか。今、行われようとしている学習指導要領改訂などの動向を正しく把握・理解し、現行の学習指導要領の下でその趣旨を先取りするような積極的な姿勢が大切である。

子どもたちに充実した“今”と希望の見える“明日”を支える教育活動を展開することを、教育課程を管理する責任者として銘記したい。

2点目は、「子どもの学びを中核にした授業改善」についてである。

現在、教科書の改訂作業が終わり、採択が進められようとしている。新しくなる教科書は、



今使っている教科書より、平均で 9%ほど厚くなった。「ノートのとおり方をどうやって教えるべきか」「実験でそろえる器具のチェックリスト」など、各教科で、教師が授業をスムーズに進められるようにサポートする内容が目立つと指摘されている。その背景には、授業に不慣れな若い先生が増えていることや、「脱ゆとり」からくる多忙化など教師の事情があると言われている。

教育活動の命は、授業であり、教育改革の成否は、毎日の授業改善にかかっていると言っても過言ではない。

「教える」とは、教師が、身につけなければならない基礎となるものを定め、入念に準備した授業をすることである。その際に行う様々な工夫が、子どもの「学び」を引き出すことになる。

「教える」ために教師に求められるのが「研究」である。勉強するときの苦しさや喜びを子どもに教えるためには、教師自らが研究を続けることの苦しみと喜びを感じることであり、そして、力を伸ばしたいという希望を抱いて努力する教師の姿勢が、子どもの学ぼうとする姿勢を引き出すことになる。

成果が早急に求められ、多忙化という中で、教師のなすべき肝心なことが外注されつつあるように感じる。今あらためて、子どもと教材に対する洞察を深める研修のもと、子どもの学びを中核に据えた毎日の授業改善に心したいと思う。

3点目は、「校長会としての声の発信」についてである。

昨年、各地区から頂いた要望をまとめ、「平成 27 年度 北海道文教施策・予算策定に関する要望書」案を、道中・道教委とともに作成した。また、各地区校長会の皆様に協力いただいた学力向上に関するアンケートや全道会長会での意見を基に、本年度は、『『生きぬく力』を育む本道教育の充実に向けた提言』案を道中とともに作成した。詳細な提案は後ほどするが、調査結果による数値や具体的な分析結果などを活用して作成している。数値データに基づいた現状分析は、本道の教育環境や施策に対する各校長先生方の声そのものであると捉えている。

全道を 3 つに分けて実施してきた「学力向上に関するアンケート調査」も今年度 3 回目を迎え、全道すべての学校の状況を把握することになる。この間における教育環境の整備、施策の実施状況について、詳細に捉えながら活かしていきたいと考えている。是非、協力をお願いする。

その他、広域人事、退職者の再任用の状況などについても調査し、道教委への要望活動に結び付けていきたいと考えている。また、全国学力・学習状況調査の結果公表や査定昇給の実施、土曜授業の実施など、新しい動きに対しても調査を行い各地区からの声としてまとめていくことも重要になってくる。喫緊の課題に対しスピード感のある情報の共有化も大切にしたい。

現状把握や道教委、市町村教委への意見表明や要望活動のためにも、あらためて皆様の協力をお願いする。

4点目は「教育委員会と校長会との連携」についてである。

全国学力・学習状況調査の結果公表については、省令が改正されたことから市町村教委と

の連携による判断が不可欠となった。

結果公表による影響を一番よく理解しているのは、学校を預かる校長である。子どもの心に影響を及ぼす可能性のある行為は、取り返しがつかないことから慎重に判断すべきとの声も少なくない。

学力の育成には、一定の期間における意図的・計画的な指導が重要であり、短期的な対応策とともに、中長期的な育成への取組が必要であることは、黒板を背にしたものであれば誰でもが理解している。子どもを中核に据え、向上心を高めるための学校改善や授業改善、生活習慣の改善に資する結果公表を市町村教委との連携のもと工夫したいものである。

「協力するところは協力し、主張すべきところは主張する」という姿勢をもち、学校と地域・保護者、そして教育行政とがともに知恵を絞り、より質の高い教育活動を展開することに心がけたい。

5点目は「組織の充実・改善」についてです。

今後の北海道小学校長会の組織強化や活動の充実・改善などについて、検討することを目的として、「組織の在り方検討委員会」を昨年度、設置した。

検討いただいた内容をもとに、会議の精選を図った。昨日、総会において承認いただいた地区代議員数の見直しや予算編成など、会員の減少に伴う活動などの見直しも行うことができた。

会員の減少による活動のスリム化は大切なことだが、校長の職能の向上を図ることは、現在の教育の流れを鑑み重視しなければならない。

今年度、日高小中学校校長会の皆様に主管していただき、「北の大地から世界を見つめ、新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育む学校経営の推進」を大会副主題として、教育研究日高大会を9月12・13日に開催する。すでに現地では、実行委員会が組織され着実に準備活動が展開されていると聞き及んでいる。充実した大会となるよう、道小としても研修部を中心に分科会の運営などについて検討している。

本年度も、校長会としての役割を自覚し、その活動を後退させることなく、活動改善と充実に向け、いくつかの特別委員会を立ち上げ、検討を重ねていきたい。

以上5点にわたり、校長会として目指す姿勢について話した。

一人だけでは達成できない目的を、複数で互いに意思疎通を図りながら協力する相互関係こそが「組織」概念の本質だと言われている。

校長会としての意思疎通を図り、北海道の子どもたちのために力を尽くすという心意気の下、より強固な相互関係を構築していこうではないか。

どうぞ、この1年間、よろしく願います。